

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間の尊厳と自立		介護福祉学科/1年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	山本 元
授業の概要				
・人間の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の理解を図る</li> <li>・人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解する</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として9年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントの復習しておくこと				
回	テーマ	内 容		
1	①人間理解と尊厳 1. 本科のねらいと概要	人間の尊厳についてグループワークを行う		
2	2. 自己理解・他者理解1：自己理解の重要性	自己覚知について解説		
3	3. 自己理解・他者理解2：他者理解について	他者理解について解説		
4	4. 自己理解・他者理解3：他者と自己の価値観の相違	生活歴と価値観について学ぶ		
5	5. 自己理解・他者理解4：人間の多面的理解について	多面的理解の方法について学ぶ		
6	6. 自己理解・他者理解5：自己の置かれている環境とは	環境の重要性について解説		
7	7. 自己理解・他者理解6：支援者として自分を見つめる	支援者としての介護観、倫理について学習する		
8	8. 自己理解・他者理解7：自律と自立	自立の概念について学ぶ		
9	②人権と尊重 9. 人権尊重と権利擁護1：権利としての人権（制度としての人権を考え	制度における権利擁護を学ぶ		
10	10. 人権尊重と権利擁護2：事例検討（施設介護について）	グループワーク、事例検討、人権擁護の在り方を学習する		
11	11. 人権尊重と権利擁護3：事例検討（在宅介護について）	グループワーク、事例検討、人権擁護の在り方を学習する		
12	12. 人権尊重と権利擁護4：事例検討（社会福祉について）	グループワーク、事例検討、人権擁護の在り方を学習する		
13	13. 介護における尊厳の保持・自立支援1：医学モデルと生活モデル	医学モデルと生活モデルの違いを学習し、支援者としての在り方を学ぶ		
14	14. 介護における尊厳の保持・自立支援2：エンパワメントについて	エンパワメントにつながる支援方法を考察する		
15	15. 人権と尊重：まとめ	人権尊重、尊厳の重要性を考察する		

回	テーマ	内容		
		評価基準	評価率	その他
	教科書・教材 介護福祉士養成講座 第1巻 中央法規出版 適宜資料、プリント配布	総合評価	100.0%	準備学習：テキストを事前に熟読しておくこと 採点内訳：確認テスト60% 平常点40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間関係とコミュニケーション		介護福祉学科/1年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	4単位(30時間)	必須	豊田 章裕

## 授業の概要

・介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な、基礎的なコミュニケーション能力を養うための学習とする。また、介護福祉士としてのチームマネジメント力を身につける。

## 授業終了時の到達目標

- ・介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う
- ・他者理解や情報の伝達に必要なコミュニケーション能力を養う
- ・介護福祉士としてのチームマネジメントについて理解する

## 実務経験有無

## 実務経験内容

有

介護福祉士として9年の実務経験  
これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること

## 時間外に必要な学修

テキスト、配布プリントの復習をしておくこと

回	テーマ	内容
1	①コミュニケーション基礎 1. 自己覚知、他者理解	自己覚知、他者理解の方法を学習する
2	2. ラポール1：支援関係における人間関係の重要性について	人間関係の仕組みについて解説する
3	3. ラポール2：職業倫理をふまえた専門的支援関係について	職業倫理と専門的支援関係を学ぶ
4	4. 対人関係1：コミュニケーションの意義	対人関係におけるコミュニケーションの意義を学ぶ
5	5. 対人関係2：コミュニケーションの概要	対人関係におけるコミュニケーションの概要について学ぶ
6	6. 言語的コミュニケーション（理論）	言語的コミュニケーションの特徴について学習する
7	7. 非言語的コミュニケーション（理論）	非言語的コミュニケーションの重要性を学び、ロールプレイを行い理解を深める
8	②コミュニケーション技術 8. 対人距離	対人距離についてロールプレイを行い、適切な対人距離を知る
9	9. コミュニケーション環境	適切なコミュニケーション環境を学ぶ
10	10. 受容、傾聴、共感	受容、共感、傾聴について学習し、グループワーク等で理解を深める
11	11. 様々なコミュニケーション手段について1：道具を用いた言語的コミュニケーション	文字媒体を活用したコミュニケーションを考え、グループワークを行う
12	12. 様々なコミュニケーション手段について2：記述によるコミュニケーション	相手に伝わるための記録について学習する
13	13. 言語的コミュニケーション（演習）	相手に伝わる言語的コミュニケーションを考える
14	14. 非言語的コミュニケーション（演習）	グループワーク、ロールプレイにより非言語的コミュニケーションの効果を学習する

回	テーマ	内 容		
15	15. 多職種との連携、まとめ	多職種連携を図る上でのコミュニケーションの重要性を学習する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
介護福祉士養成講座 第1巻 中央法規出版 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト60% 平常点40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
介護福祉総論		介護福祉学科/1年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	山本 元
授業の概要				
介護福祉士における基本的な知識を習得する。				
授業終了時の到達目標				
介護福祉士としての基本的な知識、技術を学び。各科目ごとにおいて重要なポイントを理解できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として9年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
テキスト、配布プリントを復習しておくこと				
回	テーマ	内容		
1	人間と社会 人間の尊厳と自立	尊厳と自立の重要なポイントを理解する		
2	人間と社会 人間関係とコミュニケーション	人間関係とコミュニケーションの重要なポイントを理解する		
3	介護 介護の基本Ⅰ	介護の基本Ⅰの重要なポイントを理解する		
4	介護 介護の基本Ⅱ	介護の基本Ⅱの重要なポイントを理解する		
5	介護 コミュニケーション技術Ⅰ	コミュニケーション技術の重要なポイントを理解する		
6	介護 生活支援技術Ⅰ	生活支援技術Ⅰの重要なポイントを理解する		
7	介護 生活支援技術Ⅳ	生活支援技術Ⅳの重要なポイントを理解する		
8	こころとからだのしくみ 発達と老化の理解Ⅰ	発達と老化の理解Ⅰの重要なポイントを理解する		
9	こころとからだのしくみ 発達と老化の理解Ⅱ	発達と老化の理解Ⅱの重要なポイントを理解する		
10	こころとからだのしくみ 認知症の理解Ⅰ	認知症の理解Ⅰの重要なポイントを理解する		
11	こころとからだのしくみ 認知症の理解Ⅱ	認知症の理解Ⅱの重要なポイントを理解する		
12	こころとからだのしくみ こころとからだのしくみ:こころ	こころとからだのしくみ:こころの重要なポイントを理解する		
13	こころとからだのしくみ こころとからだのしくみ:からだ	こころとからだのしくみ:からだの重要なポイントを理解する		
14~ 15	医療的ケア	医療的ケアの重要なポイントを理解する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを

回	テ ー マ	内 容	
			熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト60% 平常点40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
文章理解		介護福祉学科/1年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	山本 元
授業の概要				
生活支援技術における専門用語を学び、生活支援技術の授業で理解度を高めることができる。				
授業終了時の到達目標				
生活支援技術の専門用語を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		介護福祉士として9年の実務経験 これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること		
時間外に必要な学修				
問題プリントの予習、留学生は復習として母国語に変換する				
回	テーマ	内容		
1~3	生活支援技術専門用語理解	介護における専門用語について理解を深める		
4	生活支援技術専門用語テスト①	確認テスト①		
5~7	生活支援技術専門用語理解	介護における専門用語について理解を深める		
8	生活支援技術専門用語確認テスト②	確認テスト② 5~6回の復習		
9~11	生活支援技術専門用語理解			
12	生活支援技術専門用語確認テスト③	確認テスト③ 9~11回の復習		
13~14	生活支援技術専門用語理解			
15	生活支援技術専門用語テスト④	確認テスト④ 13~14回の復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前配布プリント

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生活支援技術 I		介護福祉学科/1年	2025/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	堀内 有美

## 授業の概要

- ・利用者がその人らしい生活を営むために必要な、介護技術を学び、個別に対応できる能力を養う。

## 授業終了時の到達目標

- ・利用者ニーズを理解し、優先順位を考えることができる。
- ・ICFの視点にもとづいて、介護技術を活用できる。
- ・自立に向けた介護技術を提供できる。
- ・他職種の役割を理解できる。

## 実務経験有無

## 実務経験内容

有

介護福祉士として11年の実務経験  
これまでの実務経験を活かし学生のロールモデルとなること

## 時間外に必要な学修

テキスト、配布プリントを復習しておくこと

回	テーマ	内容
1	①身支度の介護 1. 身支度の意義と目的	身支度の意義と目的について解説を行う
2	2. アセスメント	アセスメントとは何か、またポイントについて解説を行う
3	3. 整容、衣生活の調整	整容・衣生活の調整について説明を行う。
4	4. 介助方法	身支度の介助方法について説明を行う
5	5. 利用者の状態に応じた介護の留意点 1	利用者の状態に応じた介護技術の注意点について解説を行う
6	6. 他職種の役割と協働	他職種にはどのようなものがあるか、各職種の役割について解説を行う
7	②移動の介護 7. 移動の意義と目的	移動することの意義、目的について解説を行う
8	8. アセスメント	移動についてのアセスメント方法について解説を行う
9	9. 安全な移動の介護 1	安全に移動する介助方法について、実技を交えながら解説を行う
10	10. 安全な移動の介護 2	安全に移動する介助方法について、実技を交えながら解説を行う
11	11. 介助方法	安全に移動できるように介助方法について実技を行う
12	12. 介助の留意点 1	移動の介助の実技を行いながら留意点について学ぶ
13	13. 介助の留意点 2	移動の介助の実技を行いながら留意点について学ぶ
14	14. 安楽な移動	安楽な移動について実技を行う
15	15. 他職種の役割と協働	他職種との役割と協働について解説を行う

回	テ ー マ	内 容		
16	③食事の介護 16. 食事の意義と目的	食事の意義と目的について解説を行う		
17	17. アセスメント	食事のアセスメントについて解説を行う		
18	18. 安全な食事介助	安全な食事介助とは何かを解説を行う		
19	19. 利用者の状態、状況に応じた介護の留意点	利用者の状態、状況に応じた介護の留意点について解説を行う		
20	20. 食事形態	食事形態について解説を行う		
21	21. 他職種の役割と協働	食事介助における他職種との連携について解説を行う		
22	④排泄の介護 22. 排泄の意義と目的	排泄の意義と目的について解説を行う		
23	23. アセスメント	排泄におけるアセスメントの方法について解説を行う		
24	24. 快適な排泄	快適な排泄とは何かを解説を行う		
25	25. 安全な排泄介助	安全な排泄介助を行うには、どのようにすればよいかを解説を行う。		
26	26. 尊厳を考えた排泄介助	尊厳を考えた排泄介助について解説を行う		
27	27. 尊厳を考えた排泄介助	尊厳を考えた排泄介助とは何かをグループワークを行う		
28	28. 利用者の状態、状況に応じた介助の留意点 1	利用者の状態、状況に応じた介助の留意点について解説を行う		
29	29. 利用者の状態、状況に応じた介助の留意点 2	利用者の状態、状況に応じた介助ができるよう実技を行う		
30	30. 他職種の役割と協働	他職種との役割と協働について解説を行う		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
介護福祉士養成講座 第6巻 第7巻 第8巻  中央法規 適宜資料、プリント配布		総合評価	100.0%	【事前準備】 事前にテキストを熟読しておくこと 【採点内訳】 確認テスト：60% 平常点：40%